

館報



1 月号

やまがた

No. 789

令和4年
(2022年)



※表紙の写真は撮影のためマスクを外して撮影しています。

遊休農地の活用を模索中 かずまさ 大橋 一允さん (上竹田)

『学生時代から農家になりたい』という思いがあり、県外の農業資材会社の営業を経験後、県内での就農を目指していたところ山形村の地域おこし協力隊を知り、着任した大橋さん。農閑期の今はデスクワークで農業の知識を蓄えながらこれからの農作業に備えつつ、実際に圃場へ足を運び、農地が荒廃しないような対策や活性化の取り組みを考えています。

『今後地域で過ごしていくために、農業機械の免許取得を進めながら、山林や狩猟にも興味があり、村民の方との繋がりを学びを深めたい』と語ってくれました。

(1月5日 村内東原にて)

働姿

国際クッキング講座

12月12日(日)、トレニーニングセンターで国際クッキング講座(講師は松本駅前で「韓国料理赤とんぼ」経営の倉科壬生さん)が行われました。参加者は真剣にメモを取りながら講座がスタート。最初に韓国の食材を紹介されましたが、本場の食材を集めるのは大変なので手軽にできる海鮮チヂミとチャプチェを教わりまし



でき上がったチャプチェ(写真左)と海鮮チヂミ(写真右)とってもおいしそう

3つの班に分かれ材料を切り、生地と混ぜてチヂミの焼きに進みます。パプリカで色を添えてひっくり返すのがなかなか難しく、大変そうでした。チャプチェは実演のみでしたが、作り方をよく見てソースや材料について質問がされていました。でき上がった料理をみんなおいしそうに試食しました。

子育て支援センターすくすくクリスマス会



12月21日(火)、クリスマス会が行われました。昨年度から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前と午後の2回に分けて開催し、来場者の分散を図っています。

午前の部では、村内在住の1歳〜3歳の子どもたちが訪れ、絵本やパネルシアター、ダンスを楽しみました。サンタさんからのプレゼントもあり、保護者の方からは「コロナ禍でも行事を行ってくれて感謝です」「子どもはまだ保育園に行っていないので、サンタさんに会えて嬉しそうでした」と感想が聞かれました。

やまのこ保育園お楽しみ会

12月17日(金)、お楽しみ会が行われました。今年には日本伝統芸能士として活躍する、せんぜんさん(山ノ内町)をゲストとしてお招きし、コマ回しや獅子舞いを鑑賞しました。回すと音が出る「鳴りゴマ」や細い棒の先で回す「皿ゴマ」などさまざまな種類のコマや技が披露されると、「すごい」「やってみたい」と園児たちから熱い視線が注がれました。

山形保育園クリスマスお楽しみ会

12月24日(金)、クリスマスお楽しみ会が行われました。今年は今全園児で参加でき、とても盛大な会になりました。

まず始めにサンタさんが入場すると、園児たちは割れんばかりの歓声を上げ一気に会場が熱気に包まれました。

その後サンタさんへの質問タイムでは「どうやっておもちゃをつくるの?」「煙突のないうちにはどうやって入るの?」などと可愛らしい質問を投げかけていました。そして一人ひとりプレゼントを貰

嘸むと病気や邪気を追い払うことができる。という由来から、順番に頭を優しく嘸んでもらい、健やかな成長を願いました。普段の生活で触れる機会がなかった伝統文化に親しみ、楽しい時間となりました。



コマが回せたよ〜

今年も元気にすごせますように!

うと、満面の笑みで「ありがとう」と言っていました。園児たちの目がキラキラと輝いていたのが印象的で、とても楽しいクリスマスお楽しみ会になりました。



先生たちによるハンドベル演奏

昨年私は大晦日まで仕事でした。年末に職場では大雪に見舞われ、仕事納めの日まで除雪に追われて大変でした。まるで「激動の2021年を象徴しているかのようだ!」と思いつつ、仕事をしました。▼年が明け、元旦の山形村はスッキリ晴れ、初日の出を拝めました。キレイな日の出を見ていると「今年も沢山の明るい出来事がありそうだ」と思えてきました▼朝食時にテレビを観ていると「ニューイヤーマラソン」が行われていて、息子が「みんなで走りに行こうよ」と言い出しました。仕方なく運動不足の私にとつて今年最初のトライだと思いい、家の周りで「ニューイヤーマラソン」をしました。いきなり走ったので途中で息が上がって苦しくなりましたが、元旦の日差しを浴び清々しい気持ちで走れました。そのあとの家族新年会では余計なお酒が飲めて得した気分でした▼今年皆さんにとって幸多き年であり、疫病退散! マスクなしで笑顔が見えるような生活ができることを願っています。

山すそ

続系車 ⑩

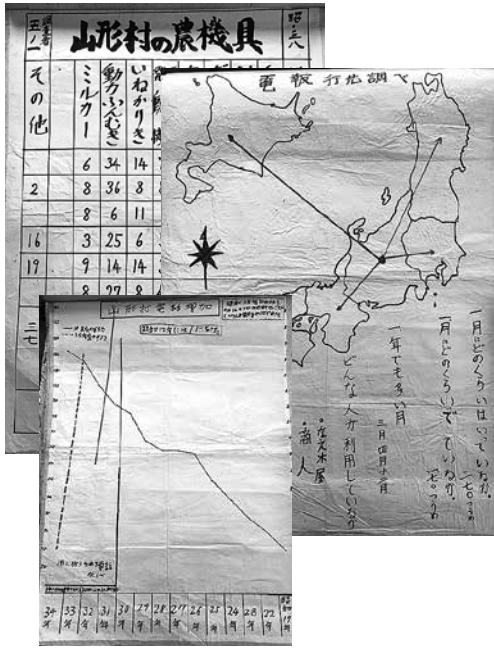
村内の文化財に関する情報などについて発信する「続・ミニ系車」。第10号となる今回は、旧ふるさと伝承館の所蔵資料についてご紹介します。

老朽化のため、令和2年度に閉館した旧ふるさと伝承館。解体された館内から仮の収蔵庫に移動・保管されている所蔵資料のなかには、民俗や考古など、さまざまな種類の歴史資料が含まれています。今回ご紹介するのは、山形小学校から伝承館へと寄贈された、教育に係る資料です。

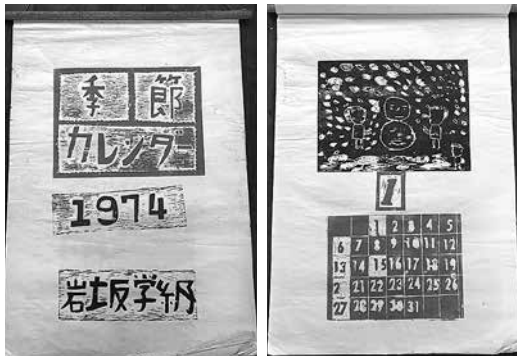
山形小学校から寄贈された資料は、多くが昭和の時代に使われていた教科書や参考図書、地図などの掛図ですが、なかには左の写真のような児童が独自に作成したオリジナルの教材もあります。

写真①は、昭和38年に5年1組の児童が調査し作成したと思われるもので、当時の村内の農機具数を地区ごとにまとめたものです。数量だけでなく、使われ始めた年も記載されています。ほかにも、乳牛の頭数や電報の行き先、電話の増加数を調べたものなどもあり、児童たちの好奇心の強さと、調査能力の高さを感じられる興味深い資料です。また、写真②は、児童の作品と思われる版画を使った昭和49年のカレンダーです。雪だるまやキノコ狩りなど、季節の題材をモチーフにした版画作品が月にあしらわれ、可愛らしいカレンダーとなっています。いずれも、村の学校教育を物語る資料であると同時に、かつての村の様子をうかがい知ることのできる貴重な歴史資料であるといえます。

写真①



写真②



みんなの人権 ⑨2

“道祖神さまへ願うこと” ～コロナ禍の早期収束を祈る～



◇令和4年も開けて1ヶ月。松の内のある日、コロナ禍の三密を避けて、地元の神社へ参拝に出かけました。途中、

地区の辻に穏やかに佇む双体道祖神にも手を合わせ、コロナ禍の早期収束や家内安全などをお願いしてきました。そして、その脇に建つ村史談会作の銘板QRコードから流れる説明を聞きながら、天然痘などの疫病に悩まされた江戸末期の祖先たちの、道祖神に込めた祈りに思いを馳せました。「もしかすると、百年前の『スペイン風邪』の猛威の際にも、地区の人たちの切なる祈りがあったのかも」などと思像しながら。◇大正7～12年にかけて流行ったスペイン風邪。今のようにマスク、消毒、集會禁止などの防護策も空しく、亡くなった人は、全国で推定39万人。山形尋常高等小学校でも、多い日には欠席者263人。児童の死。断続的な臨時休校も（山形学校史）。◇ところで、我が村は、道祖神の宝庫です。なかには、隣村から嫁入りしてきた道祖神もあるとか。これらの道祖神は、疫病などのやっかいな災いが村に入ってくることを防いでくれたり、旅人の安全を守ってくれる神だったと伝えられています。今では縁結びや夫婦円満、家内安全、五穀豊穡などさまざまな願い事を叶えてくれる庶民の神として崇められるようになりました。なかでもわが村に多くみられる双体道祖神は、男神女神が仲良く肩を組み合っており、お互いが手を握り合っており、酒を酌み交わしたり、周囲に微笑ましい光景を醸し出してくれています。◇山形小児童作「いいとこたくさん山形かるた」でも「安全な旅人守る道祖神」と紹介されています。また、村の「未来塾」に通う中学生も、「ふるさと学習」でこの神のいわれを聞いて以来、「毎日登下校途中で顔を合わせては、温かい元気をもらっていると話してくれました。慈愛に満ちたその姿は、まるで『優の風景』そのものようです。この2年間のコロナ禍で亡くなった人は、世界で544万人、日本で1・8万人。私たちの願いが届いて、この疫病禍が早く収まってくれることを祈るばかりです。

令和4年1月 M・H記



2022年 スタート!



山形村の寅年生まれ人口

令和4年(2022年)1月1日現在
役場住民課調べ 単位:人

生まれ年	年齢	男	女	計
大正15年(1926年)	96歳	3	14	17
昭和13年(1938年)	84歳	32	32	64
昭和25年(1950年)	72歳	67	59	126
昭和37年(1962年)	60歳	49	52	101
昭和49年(1974年)	48歳	73	62	135
昭和61年(1986年)	36歳	34	33	67
平成10年(1998年)	24歳	36	37	73
平成22年(2010年)	12歳	43	30	73
合計		337	319	656

恒例の年男・年女の方を対象とした『新春アンケート』が村民全般へと一新しました!幅広い世代のみなさんから2022年への思いや心温まる言葉を寄せていただきましたので、ご紹介いたします。
みなさんはどんな1年にしたいですか?

【質問】

- ①今年の抱負・目標は?
- ②元気の源は何ですか?
- ③今、気になっている身近なことや世の中のこととは?
- ④山形村のいいところは?
- ⑤今後の山形村に望むことは?
- ⑥「ありがとう」のメッセージを贈るとしたら誰に何と伝えたいですか?

- ① ずばり!!健康です!!
- ② ずばり!娘の笑顔!!
- ③ ずばり!大谷翔平くん!!
(唯一の明るいニュース)
- ④ 仕事や趣味を通して、多くの知人ができたこと。
- ⑤ すべての人が生き生きと暮らせる村であってほしい。
- ⑥ 家族に。
「いつも支えてくれて、ありがとう。これからもよろしく!!」



青木 茂
(上竹田)

- ① コロナに負けぬよう健康第一の暮らし。
- ② 愛犬とのくらしは癒しの源。書道、川柳等趣味の仲間とのふれ合いで若い人から元気をもらい見聞も広げられる。



中川 功子
(小坂)

- ③ コロナ第6波の到来。成年年齢の引き下げ。デジタル化。若者の独身主義者が多くなったこと。
- ④ 山懐に抱かれて災害の少ないこと。
- ⑤ 安心して車の免許を返納できるような細かい対策。
- ⑥ 今は亡き両親、恩師、先輩と今迄に育てて頂いた方がたに心からありがとうございましたとお礼を申し上げたいと思います。



中村 ゆき
(上大池)

- ① 健康第一
- ② 最近、ナンプレに夢中です。ハーモニカも頑張りたい。
- ③ 新型コロナ、オミクロン株も流行ってきて外に出られない。遠くにいる孫に会いたい。
- ④ 空気がいい、景色もいい。住みやすい村であると思う。
- ⑤ 総合病院があったらいいなと思います。
- ⑥ お父さん。
今年結婚50年になります。本当にありがとうと言いたいです。

- ① 今年高校1年生から続けてきた部活も終わり、大学受験が始まります。部活では今まで練習してきたことを活かしてやっていきたいです。大学受験では、自分の力が十分に発揮できるようにしっかりとした準備をしていきたいです。
- ② 僕にとってバドミントンをしているときは、小さな悩みや今日うまくいかなかったこともバドミントンで体を動かしているときは忘れて自由になれます。
- ③ 新型コロナウィルス、環境汚染、ごみ問題やプラスチック問題、地球温暖化。
- ④ 緑が豊かなところ。幼い頃から自然を肌を感じ、空気はおいしく、いつもの1日がとても良い始まりを迎えます。
- ⑤ 交通の便です。バスが1時間に1本と不便な点があります。他には自然破壊です。山形村は自然が豊かですが、その分守る必要があります。
- ⑥ 家族、友人、自分を支えてくれた方へ大切に育てていただきとても感謝しています。これからは困ったことやわからないことに直面したときに一緒に支えあっていきたいです。そして、これからもありがとうと言いたいです。



櫻井 舷希
(小坂)

寅年年表

- ◆大正3年(1914年)
 - ・中大池消防組創立
- ◆大正15年(1926年)
 - ・山形村消防是さまり
 - 消防組連合会発足
- ◆昭和13年(1938年)
 - ・山形青年訓練所の設置
- ◆昭和13年(1938年)
 - ・自治制発布(市町村制施行)
 - 50周年記念事業が行われる
- ◆昭和25年(1950年)
 - ・公民館報創刊号発行
- ◆昭和25年(1950年)
 - ・山形村商工会結成
- ◆昭和37年(1962年)
 - ・有線放送施設しゅん工
- ◆昭和37年(1962年)
 - ・小中学校プール完成
- ◆昭和49年(1974年)
 - ・村長選に初の立会い演説会が行われる
 - ・清水高原別荘地の分譲始まる
- ◆昭和61年(1986年)
 - ・山形小学校開校100周年記念式典が行われる
- ◆平成10年(1998年)
 - ・記録的大雪(最深雪量69cm)
 - ・台風7号による、史上最大の農作物被害
- ◆平成22年(2010年)
 - ・現保育園の建設事業開始
 - ・村民運動会 初の雨天中止
- ◆令和4年(2022年)
 - ・どんな年になるのでしょうか…(参考 村誌やまがたなど)



宮澤 竹矢 (上竹田)

- ① 昨年まで膝の大怪我で治療に専念していました。数年前ヨーロッパへ研修に行った際に、ある高齢の男性と親しくなり学ぶことの大切さを教えて頂きました。今年からは『学』を基にして様々な本を読んで挑戦していきたいと思います。
- ② コロナの影響でやるのが少なくなりましたが冬のシーズンでスノーボードを楽しむことです。
- ③ コロナの影響で人出が減った事によってヴェネチアやハワイ等各地で生態系が少しずつ戻ってきたというニュース。
- ④ 昔に比べて店が増えて便利になりました。
- ⑤ ゴミの不法投棄が増えてきました。治安の悪化や不法投棄の改善として監視カメラ設置をお願いしたい。
- ⑥ 村の未来のために貢献してくれた祖父を含めた先代に感謝しています。



曾根原 覚 (下大池)

- ① 「チャレンジ！」いままでできなかった、新しいことにチャレンジしてみたいと思います。
- ② 娘の幸せです。かわいい娘たちが幸せにしている姿を見ていることに幸せを感じるからです。



市川 渉 (下竹田)

- ① 資格取得 これまでの経験を活かし、さらなるスキルアップを目指す。
- ② 釣り 旬に応じて釣り方を変え、魚との知恵比べが楽しい。釣れても釣れなくても海まで行くことでドライブとしても楽しめる。

- ③ 竹田村の祖が気になります。それもあって、最近空き家となっていた住宅を借りました。
- ④ 身近なところに、楽しい人がたくさんいることです。
- ⑤ 皆が楽しく暮らせる村になつてほしいです。村全体がエンタメみたいな感じだと楽しいですね！
- ⑥ 妻。かわいい娘を3人も産んでくれ、また、自由に活動させてもらつて感謝です。ありがとうございます！

- ③ 新型コロナウイルスの感染拡大。いつになったら終息するのか…。
- ④ 近所の知り合いや友人から新鮮な果物や野菜が届く。
- ⑤ 子供が水辺で遊べる公園やキャンプ場などがあればいいと思う。
- ⑥ 子どもたち。日々、成長に伴って新たな発想や感動を与えてくれる。子どもたちのためにも仕事と釣りをがんばりたい。



小澤 奈聖 (中大池)

- ① ゆとりを持って行動できるようにする！
- ② 何よりも子どもたちの存在が元気の源です。子どもたちの成長や頑張っている姿に自分も負けていられない！とパワーをもたらしたり、娘達の笑顔にいつも元気をもらっています。
- ③ コロナに関するニュース。
- ④ 山形村は緑豊かで、野菜や果物もおいしく、地域の皆さんも優しい方たちばかりで、山形村に住んで本当によかったなと思います。
- ⑤ 子どもから高齢者までみんなに優しく暮らしやすい村であつてほしいです。(特に交通面が不便だと思うので改善してほしいです。)
- ⑥ 旦那さんへ。いつも家族のために頑張つてくれて本当にありがとうございます！！

新春アンケートにご協力いただいた8名のみなさんありがとうございました。館報編集部では、村民のみなさんと繋がる企画を継続してまいります。今後とも館報やまがたをよろしくお願いたします。

山形村の 三九郎



三九郎の起源

年始の恒例行事『三九郎』、今年のみなさん参加されましかたか？

子どもの頃、大きく立ち上がる炎の迫力に圧倒されたり、おだんごが炭になってしまったり、お楽しみ会でワイワイ騒いだり、文房具のプレゼントが嬉しかったりと、三九郎には比較的ポジティブなイメージを持っている人も多いのではないだろうか。

お正月飾りを焼くこの行事ですが、少なくとも村内では管轄している組織や団体が存在せず、にも関わらず日本各地、多くの地域で今も続いている不思議なお祭りです（山形村では現在、小学生と小学校PTAの保護者や各地区ボランティアが先頭に立って執り行われています）。今回は誰もが知っている謎深き小正月の火祭り、三九郎を掘り下げてみようと思います。

諸説ありますが、平安時代の宮中行事であった『左義長(三稜杖)』が最有力とされ、これは陰陽師が行った新年のお祓いのような火行事でした。やがて、門松や注連飾り

によって出迎えた、歳徳神(とんどさん、年徳、歳神、年神、正月さま、などとも呼ばれる)を縁起物を焼くことによって炎と共に天に送る火祭りとして変化していき、これが全国に広がったとされています。日本各地での呼び名は知られていますが、『三九郎』という人名のような呼ばれ方をするのは松本市を中心とした長野県の中信地域(旧松本藩)だけです(塩尻市、安曇野市も三九郎とのこと。ちなみに県内でも木曾町、長野市などでは『どんと焼き』などと呼ばれています)。この独特な名前の由来は、道祖神を祭祀した神主を『福間三九郎(個人名ではなく継承される神主名)』と呼んだことが有力だと言われていますが、初代松本藩主の石川数正の息子の康長の幼名が『三九郎』だったことに由来する説や、道祖神祭りの際に供えられる人形の名前だった(昔、サンククロウという木の

人形を一緒に燃やしていた)とか、三苦勞(病、災厄、重税)をモジったものだったのではないかなど、諸説あるようです。

三九郎の役割

主に次の役割があるのだと思われれます。

- ・お正月に迎えた年神様を天に送る
- ・お正月飾りや縁起物の供養(処分)
- ・無病息災祈願
- ・養蚕繁栄祈願
- ・豊作祈願
- ・書き初めを燃やして文字の上達

お正月飾りには年神様が寄り付くと昔から信じられており、粗末に扱えないこれらを集めて焼き、縁起物に宿った年神様を燃え上がる炎と煙で天高くお送りするのが三九郎の第一目的とされます。火の粉が高く立ち上がるほど豊作になり、神聖な炎でお団子をあぶって食べるとその年は病気がからないなどが言い伝



2022.1.9
無病息災を願う
繭玉のお団子(下大池)

えられています。しかし、何より地元住民が年始に一堂に会して火を眺めるといふ、つながり形成の場であったことが脈々と受け継がれてきた所以なのだと思います。

ちなみに熾火で餅や米粉のおだんごを焼いて食べる風習は日本各地多くの地域で行われていて、三九郎地域では繭玉形状のお団子を柳の枝に飾り付け、それを焼いて食べることも多いのが特徴のようです。

子どもの祭り

例外はあるものの、全国一律、小学生だけで全てを行うお祭りでした。現在では考えにくいですが60年ほど前までは芯棒の切り出しから櫓の組み立てまで、小学校の高学年が先頭に立って取り仕切っていたようです。また、1月7日から15日までの間、多くの建設中三九郎では櫓に小屋を作り、その中で餅を焼いて食べたりと、子どもの恰好の遊び場にもなっていました。

三九郎作りはそもそも危険な作業が多いため、少なくとも40年ほど前からは保護者やボランティアが手伝って三九郎を完成させるようになり、さらに現在では少子化の影響などから常会合同での開催も多くなってきました。



2022.1.9
伝統的に5常会合同で開催されている
中大池地区

道祖神祭り と繭玉様と三九郎

左義長は東日本に伝わった際、もともとは道祖神祭り(或いは、道陸神、塞の神祭りなど)となったようです。三九郎と性質は同じで小正月に正月飾りを焼く行事として江戸時代後期には盛大に行われていた記録が野沢温泉村「野沢の火祭り」道祖神碑に残っています。

また、山形村には『こだまさま』と呼ばれるお蚕様を祀った石碑がいくつも存在していて、道祖神と並び置かれているものも多く、村の構造改善以前にはこの石碑の近くで三九郎が行われていたようです。

筆者が調べた限りでは、三九郎が以前は道祖神祭りと呼ばれていたかは定かではありませんが、おそらく当時強力だった養蚕信仰を合わせた三



道祖神祭りの様子(下大池)

つの要素が合流、融合して今の三九郎に落ち着いたのではないかと考えられます。補足として、江戸時代前期の延宝6年(1678年)に松本城下町に出された触書ふれがきが残存している、そこには「城下町で左義長を行うときは、大人が立ち会い火の用心に努めるよう」と書かれています。少なくとも三九郎という呼びかたが始まったのはそれ以降で、旧山形村地域での呼び名は道祖神祭りか左義長だったということになるかもしれません。

三九郎を作る場所が変わり、道祖神やこだまさまを意識しなくなった地区が多くなっていると思えますが、例えば上竹田四ツ谷常会では伝統的に現在でもこだまさまの前で松明に点火し、その火を三九郎に運んでいるとのことでした。また、三九郎を組み上げた後に同時開催の行事として道祖神祭りが現在も執り行われている地区もあります。

山形村三九郎の特徴



長い芯棒にダルマを吊るした三九郎(小坂)

三九郎と他の火祭りとの最大の違いは最上部にダルマを飾ることのようです。そこから発展したのか、背の高い芯棒と芯棒に巻きつけた藁、そして上部の笹にダルマを吊るすように飾るのが山形村流です。松本の三九郎より背が高いことが多く、立ち上がる炎と火の粉は凄まじいものがあります。これは大人が手伝うようになって三九郎が巨大化していったことが一因であると考えられます。歌も三九郎圏内は独特で、独自進化してきたことがうかがえます。

三九郎の歌

さんくろやーいさんくろやいじーちゃんばーちゃんまごつれてーおだんごやきにきておくれ 山形村

点火前に子どもたちが歌い歩くお馴染みの歌ですが、松本市では山形村とほぼ同じ歌もあれば、地域ごとにさまざまな歌があったようです。例えば、隣接した松本市今井境

鳥追いの行事

新田地区では歌詞、曲調が全く異なっていて「三九郎やい」から始まるものの、歌詞内容からおそらく鳥追いの歌であると考えられます。また、ものから集めの時に歌い、点火前の歌い歩きはなかったとのこと、すぐ近所でも違いがあり興味深いです。

昨今はコロナ禍の影響もあり、歌い歩きを取り止める常会も増えていると思います。が、長期間寸断された場合は文化継承が危惧されます。

三九郎とセットで行われている行事が『鳥追い』です。全く存在を知らない方もいると思えますが、開催されている地区が限定されているようです。子どもたちが早朝5時頃から集まって拍子木などを叩きながら歌って担当の常会を回る、まさに鳥を追いかけていた地区もありました。

最後に

なかつたようです。木曾町や新潟、群馬、茨城県などで単体行事として知られており、鳥追いもまた三九郎の一部として合流した行事であると言えるでしょう。

記録が乏しい三九郎を調べていくと、何よりはつきりしたのが常会単位でも同じように微妙に違う行事であるということでした。

少子化で開催が難しくなってきた三九郎は、2000年の祝日法改正付近から日程も変わってしまい暦の上でも意味合いが薄れました。子どもの行事から大人中心の行事に変わってきてしまったのは仕方がないことだと思いますが、2001年の館報調査で話題にあつた、そもそも開催意義がわからない場合は惰性の行事になってしまうように思い、それはあまりにも残念なことに思います。

調査を通じて、大昔からそうであったように時代に寄り添い、たとえ規模は縮小しても地域に根ざした三九郎が今後も続いていけば素晴らしいことだと思います。

他の取材記事写真は別号で改めて紹介予定です。今号ではどうぞご容赦ください。

こだまさま(蚕玉様)とは?

養蚕信仰の象徴として設置された蚕かいこの神の石碑である。養蚕繁栄を祈願していると考えられ、県内では中信地域のほか養蚕が盛んだった各地で確認されている。文献が少なく詳細は不明だが従来は『蚕玉祭り』が2月に行われていたため日程に近い三九郎とお祭りが合流した地区もある。石碑には、『蚕玉神』と蚕は旧字体で書かれていることが多く、他にも『蚕神』『蚕玉大神』など、刻まれた文字は地区によって異なる。



上竹田四ツ谷常会

おめでた(字・題)

鈴木 朱璃・雄大 上大池
 堤 楓真・大樹 下大池
 酒井 聖来・成弥 小坂
 宮沢 美知子・71歳 上竹田
 堤 美奈登・93歳 小坂

おくやみ

(敬称略)

※優の風景は3ページに掲載しています。

山形村俳句クラブ

頌春

川柳あららぎ

植木鉢狭しと咲けり福寿草	竹野入 恒夫
茶毘に付す女優の謎や吹雪の夜	竹野入 美奈子
元旦や郵便受けの音を待つ	青木 彌生
日の丸のはためく門の淑気かな	武居 弘
獅子舞にがくと噛まれし幼き日	武居 香織留
注連飾に幼な作りし飾り添へ	鈴木 まゆみ
波の花ぶつかり合ひて越の宿	住吉 愛子
シードルを醸す香や冬の星	大澤 富久子
若菜野に草摘む人か遠き影	中村 貞子
銀翼の北へ飛び立つ初御空	古畑 房子
晴ればれと生きて初日に励まざる	上條 忠昭
成人の日あがる歓声友の輪に	大村 かく子
めでたさや家族揃ひて雑煮食ふ	上條 治子
先生の伊達襟は赤初句会	荻上 憲治
凜平たり仙台平の着衣始	大野 今朝子



都路をタスキが走る駅伝や	犬飼 三夫
年拾う診察券も一つ増え	青沼 道子
ご馳走は舌になじんだ母の味	中川 功子
チャイム鳴りあわててマスク玄関へ	籾町 貞子
走り書きそう見えただけど名書とか	古畑 弘子
未払いに残高不足詐欺師から	上條 民雄
それ五時だ値下げの札へ走る主夫	上條 智佐雄
杉玉が今年の出来を誇ってる	上條 光男
看護師が脈をとる時早くなる	中村 一博
ずくなくてこたつを守る年の末	上條 善清
息子言う反面教師俺のこと	村井 稔
再開を雪と新株邪魔をする	村井 敏子

2022

※山形村短歌会による短歌の掲載は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動休止のため掲載がありませんのでご了承ください。

北京冬季オリンピック日本代表選出!



杉本 幸祐さん(上竹田)

1月19日(水)、全日本スキー連盟は北京冬季オリンピック代表内定選手を発表し、フリースタイルスキー男子モーグルの杉本幸祐さん(上竹田)が日本代表として選出されました。杉本さんはオリンピック初出場で、今季はワールドカップ第8戦で自己最高の3位入賞を果たす等、好成績を残しておりメダル獲得が期待されています。

北京冬季オリンピックは2月4日(金)に開幕しますが、男子モーグルは開会式前日の3日(木)【テレビ朝日系列で20:45放送予定】に予選が始まり、5日(土)【テレビ東京系列で20:30放送予定】に決勝の予定。村一丸となって杉本選手をはじめとする日本代表を応援しましょう!



【写真提供】株式会社 デイリーはやしや(所属元)

